
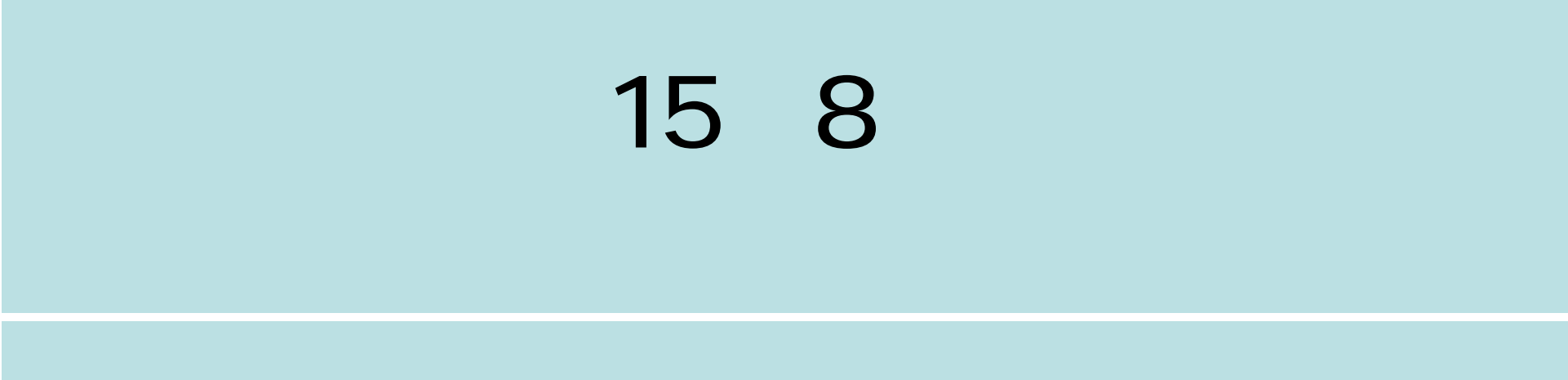
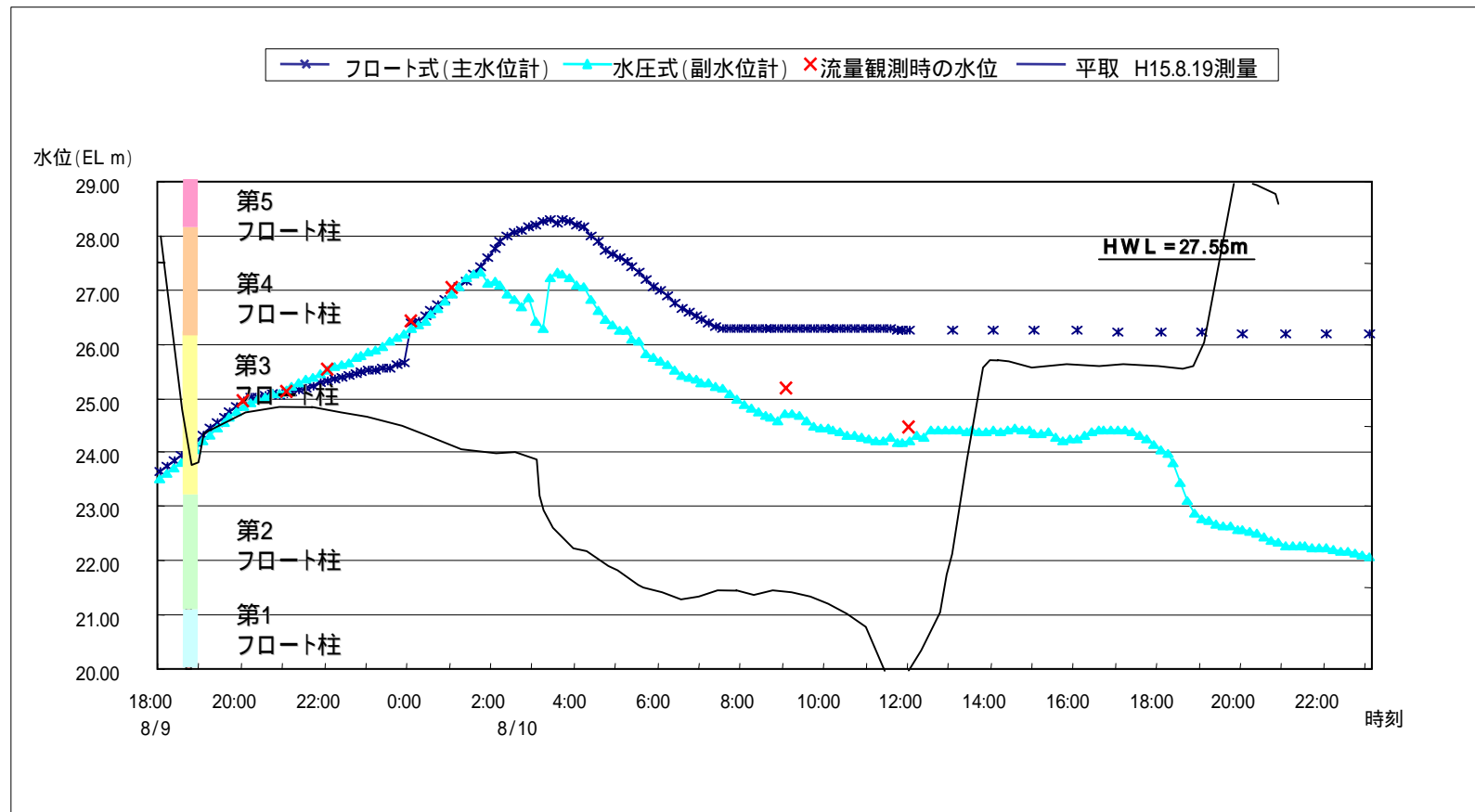


平成15年8月洪水 平取観測所での水位差補正



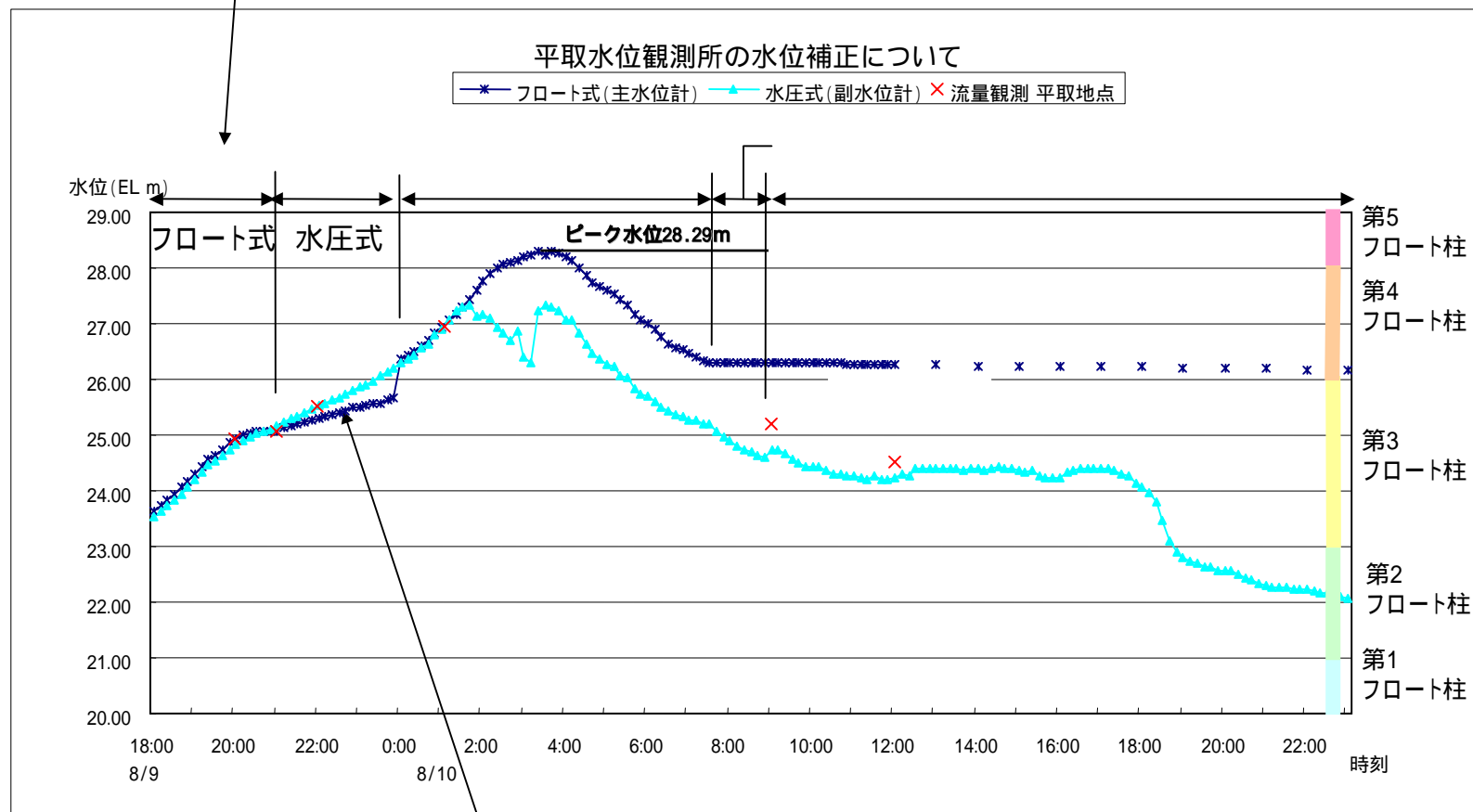
平取水位観測所の課題

フロート式水位計（主水位計）と水圧式水位計（副水位計）で観測値に差が生じているため、水位測定結果を見直し補正する



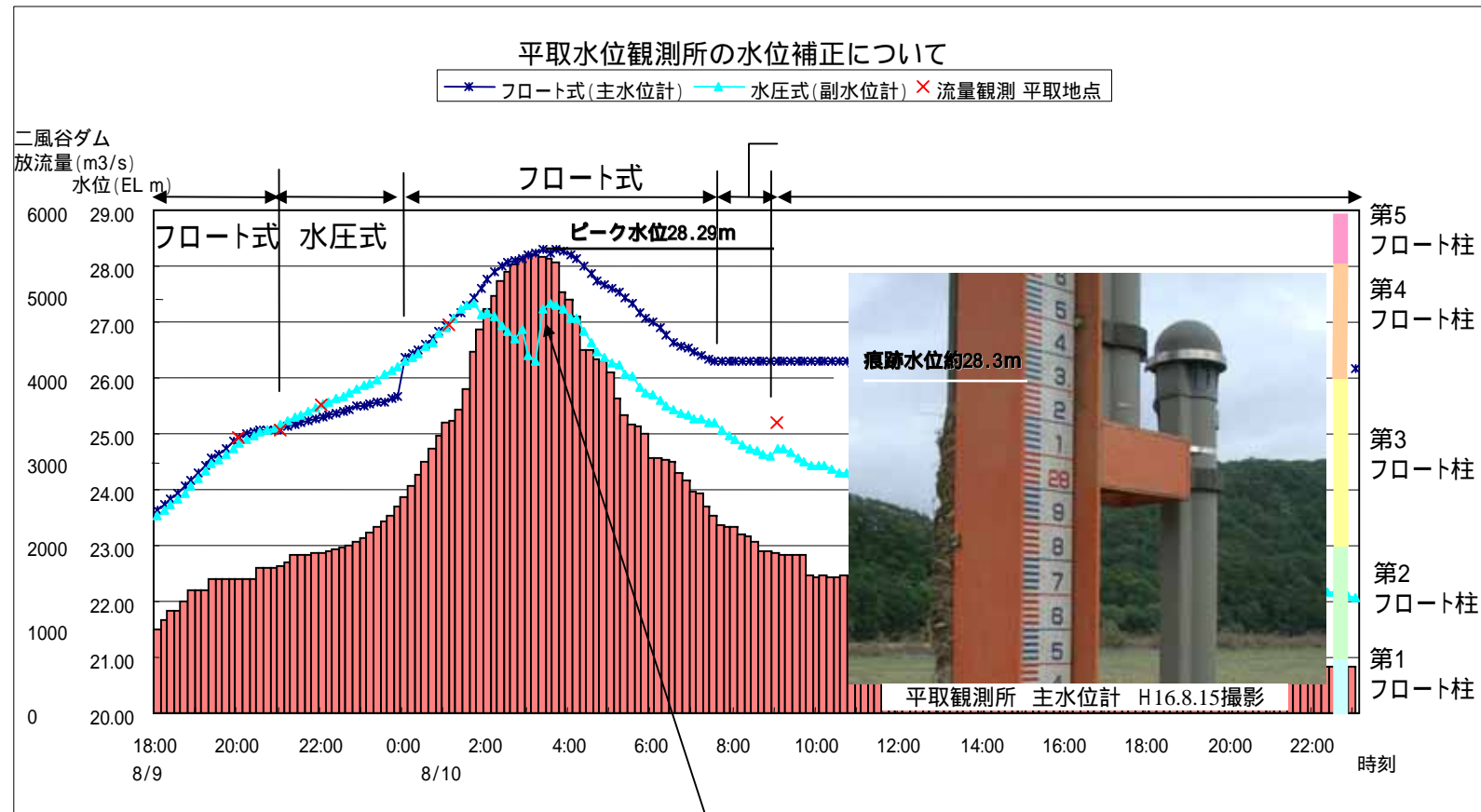
水位補正の考え方、期間

の期間はフロート式と水圧式の測定水位の整合が図られているため主水位計(フロート式)の値を採用する。



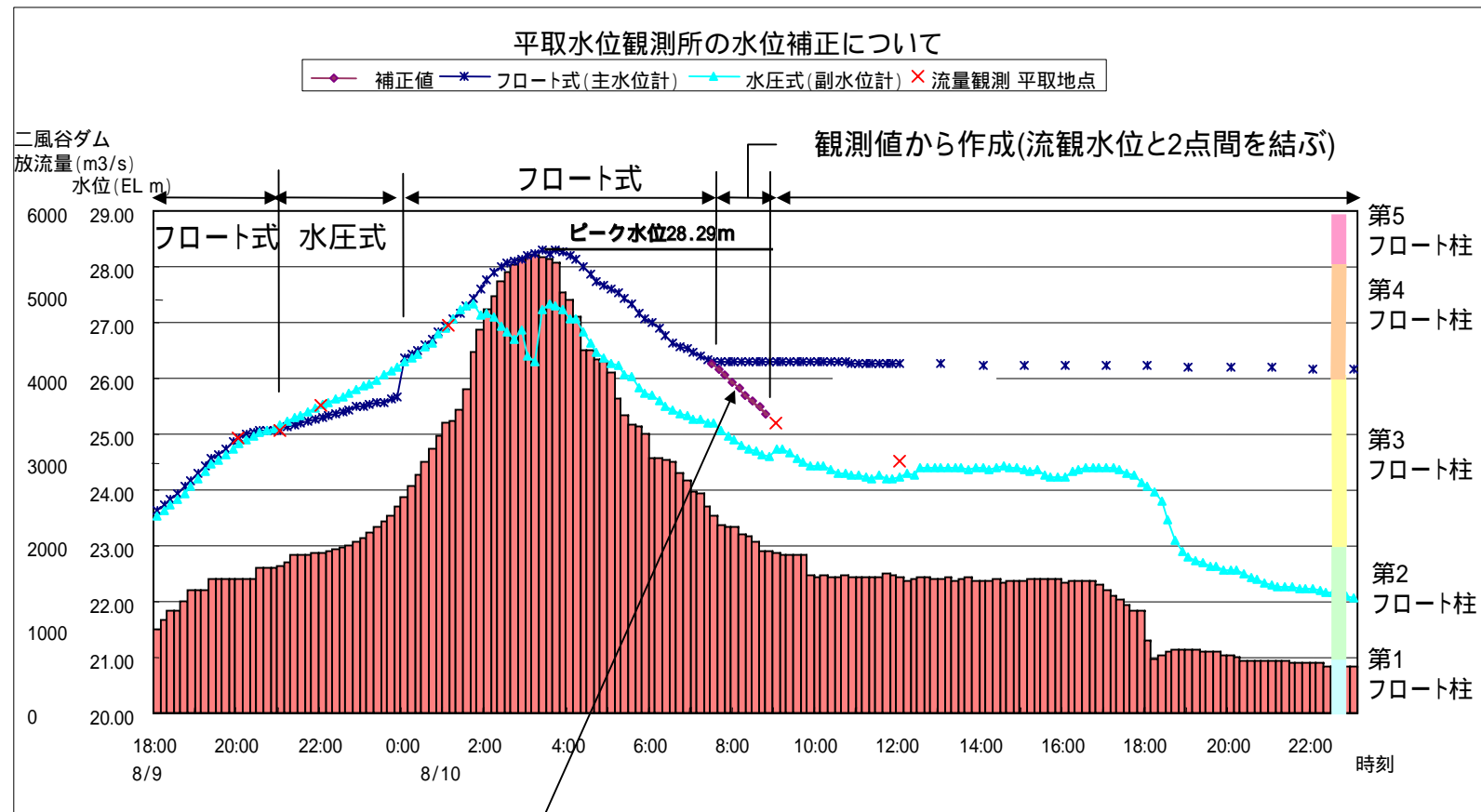
の期間は、水圧式の水位と流量観測時の水位が一致しているが、フロート式水位計は、フロートにゴミ等がつまり正常に作動しなかったものと考えられることから、水圧式の値を採用する

水位補正の考え方 期間



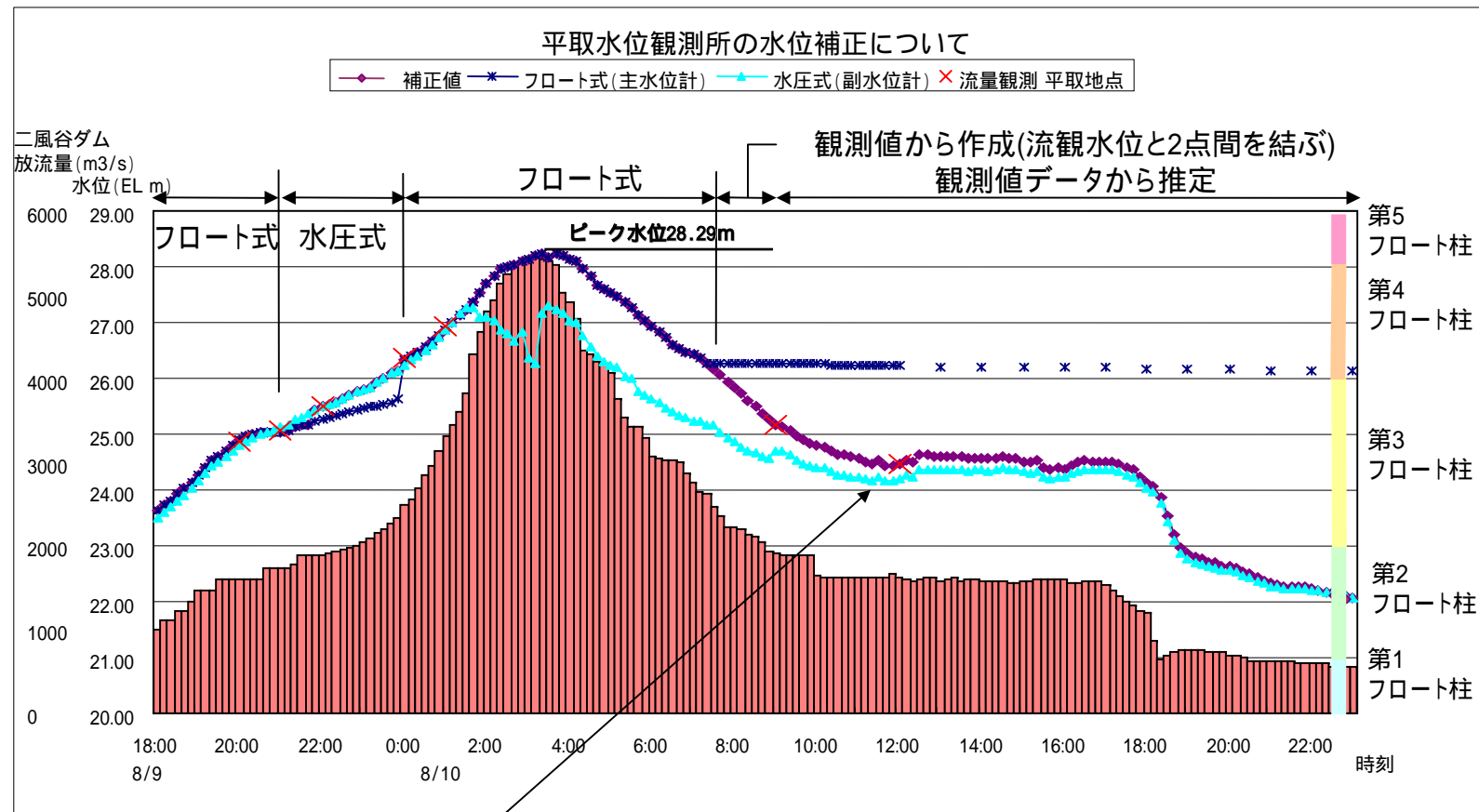
この期間は、二風谷ダムの放流量と水圧式の水位変動の整合が取れない。また、フロート式の水位はピーク水位で痕跡水位とも整合が取れているため、フロート式の値を採用する。

水位補正の考え方 期間



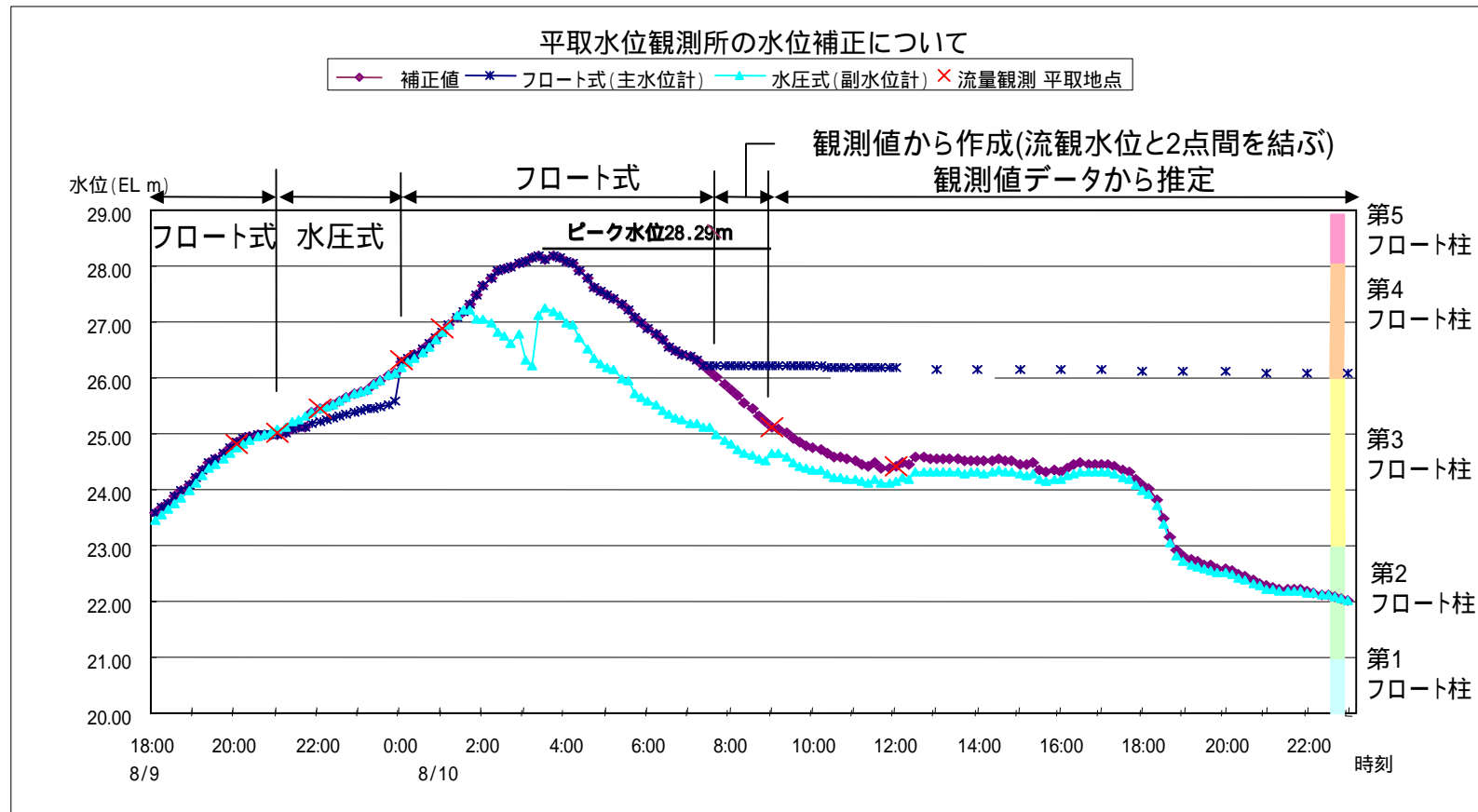
の期間以降は、フロートにゴミ等がつまり正常に作動していないと考えられる。
この期間は二風谷ダムの放流量がほぼ一定割合で減少しているため
高水流量観測時の水位を直線で結び水位を設定する。

水位補正の考え方 期間



の期間は水圧式の水位が高水流量観測時の水位よりも低いものの二風谷ダムの放流量に追従し変化している。このため高水流量観測時の水位と水圧式の水位の差を比例配分し、水圧計の水位に加えた値とする。

決定値（補正值）



平取観測所水位データの検証

平取水位観測所の洪水後の状況

